

弘前大学と化粧品メーカー「ラビプレ」（弘前市）が共同研究で開発した「白神の森乳酸菌」L8株を配合したリンゴジュース「青い森の、大地の恵み。白神の森乳酸菌®入り」が20日、同市のつがる食品から販売された。同乳酸菌L

8株は、肝機能改善の機能性などで特許を取得し、大腸炎の改善効果も明らかになるなどその機能性が注目されており、このリンゴジュースではコップ1杯(200㍓)で約100億個の乳酸菌を摂取できる。（西尾瑛）

## 弘大・ラビプレ共同開発「白神の森乳酸菌」L8株

# リンゴジュースに配合



20日に販売が開始された、白神の森乳酸菌配合のつがる食品リンゴジュース

### つがる食品から発売

## 1杯当たり「健康に役立てて」 100円ちょっと

同乳酸菌L8株は、弘前大農学生命科学部の殿内曉夫教授が白神山地に自生する樹木「キハダ」からの分離に成功した新規乳酸菌。現在、食品などへの展開が

進められ、同乳酸菌入り食パンなどが販売されている。商品化したリンゴジュースは「ふじ」をはじめ「王林」「ジョナゴールド」な

ど十数種類をブレンドした県産リンゴストリートジュースに無味無臭の同乳酸菌L8株パウダーを配合した。1㍓入り税抜き700円と価格も抑え、毎日の食事に取り入れられるようにした。

20日、ヒロロスクエアで開かれている市高齢者トレーニング教室で試飲会が開かれ、参加者からは「とてもおいしい。試してみたい」と好評。つがる食品の三上孝治取締役執行役員営業部長は「リンゴが持つ整腸作用と大腸炎改善効果などが明らかになっている白神の森乳酸菌との相乗効果に期待している」とし、ラビプレの三浦和英社長は「1杯当たり100円ちょっと、手軽に健康に役立ててほしい」とPRした。

現在、ヒロロ地下1階の「やおえん」で取り扱っているほか、順次県内スーパーや土産物店での販売を予定している。

この画像は、当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。転載ならびにページへのリンクは固くお断りします。